

MAZROCの手すりは

“優しさと温もり” をカタチと機能で表現しています。

屋内

BAUHAUS

- 32木製ハンド
- 32木製手すり
- 35木製手すり

材質へのこだわり



- 温かさと優しさの天然木です。

機能・カタチへのこだわり

安心設計のバリアフリー仕様



- 袖などがひっかからないエンド部の曲げ加工



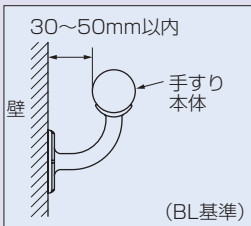
- 握りやすい32ミリ径でディンプル加工



- 移動しやすい35ミリ径



- 安全性を考えた連続手すりの部材



- 壁との間はしっかりと握れる寸法です。
 [BAUHAUS]32は40.5mm
 [BAUHAUS]35は35mm

手すり棒の強度

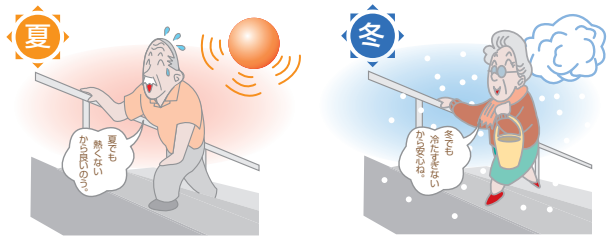
手すり棒の材質や太さにより、取付金物の間隔が決められています。最も一般的なアッシュやタモ集成材では、直径35mmの場合は90cm以内に、直径32mmの場合は70cm以内に取付金物が必要です。階段などは、傾斜の関係で柱間隔が90cmであっても手すり取付金物の間隔はそれ以上になりますので、壁の下地処理が必要です。

柔らかい南洋材は、加工が容易なのでDIYで多く使用されます。強度はありますが、しなりが大きいため取付金物への負担が大きく、金物が金属疲労により折れる事故が発生しています。この場合も出来るだけ取付金物の間隔をつめて使用するのが安全です。

屋外

- 屋外用樹脂手すりアプローチEレール

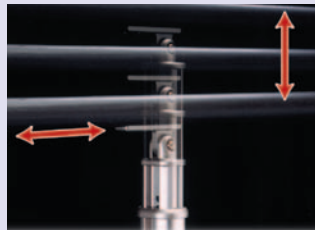
材質へのこだわり



- 丈夫で優しい樹脂です。
 (樹脂は環境配慮型のオレフィン系エラストマー)

機能・カタチへのこだわり

高齢者と施工性を考えた高機能



- 高齢者の身体状況にあわせて高さ調整が可能な、高さ調整機能付(階段の高さが異なるリフォームでも簡単に設定可能)



- フリーブラケットなので支柱の位置が自由に設定可能(支柱間隔は900mm以内)



- 現場で自由に曲げられる曲げ専用部材(上曲げ、下曲げ、横曲げタイプがあります)

- 握りやすい34ミリ径

屋外用手すりの材質

手すりは、屋外や室内用といった使用場所により材質が違います。目的にあった材質のものを選びましょう。

屋外では、風雨や寒暖の差が激しく、強い紫外線に晒されるので腐食が早く進みます。金属製のブラケットなら大丈夫と思って使用される方がいらっしゃいますが、室内用の垂鉛ダイカスト製のものを使用すると腐食が早い場合があります。メーカーが指定するステンレス、アルミ、耐候性樹脂のものを使用しましょう。

屋外では



高齢者が使う手すりの目的は

“動作と移動を補助” することにあります。

高齢者は体力の低下に伴い、動作や移動に支障をきたします。手すり一本で日常生活が大きく改善されるケースが多く、高齢者の住宅改造で「手すりの設置」が最も重要な改善項目になっています。

動作の補助とは

1. 玄関先での立ち座りの補助
2. 便器への立ち座りの補助
3. 扉の開閉のバランス補助 など



移動の補助とは

1. 階段の昇りや降りの昇降移動
2. 廊下を歩く等の水平移動
3. 部屋内部や屋外の移動 など



●便所、洗面所、扉の横などに使います。

●廊下、階段、屋外などに使います。

手すりの使い方は、大きくは「摺る」「握る」「支える」に分けられ、高齢者が利用する場合は、立ち座りの「握る」と歩行の「支える」といった使い方が多くみられます。また、太さや形状も高齢者の身体状況や使用場所に合わせて適切に選ぶことが大切です。

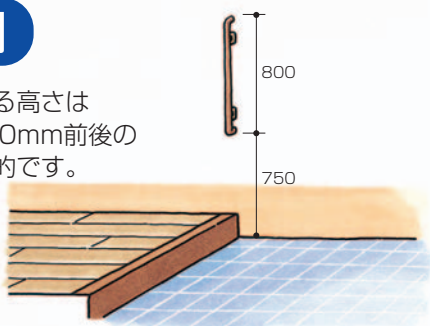
	「摺る」	「握る」	「支える」
使い方	 ●手が添えやすいもの	 ●しっかり握れるもの	 ●ひじや手のひらで支えられるもの
太さ	手を滑らせて移動するため 直径32~36mm	強く握って移動するため 直径28~32mm	ひじなどで、もたれかかって移動するため 上部平坦型等の幅50~90mm
形状	円柱型 上部平坦型	円柱型 (特にグリップ加工付のものがよい)	上部平坦型 板型
設置場所	・廊下での水平移動 ・階段の昇降移動 ・屋外のスロープ、階段の移動 など	・便所の立ち座り ・玄関の立ち座り ・扉の横等の補助 など	・ひじで支える場合 ・手のひらで支える場合 など

手すりの望ましいつけ方

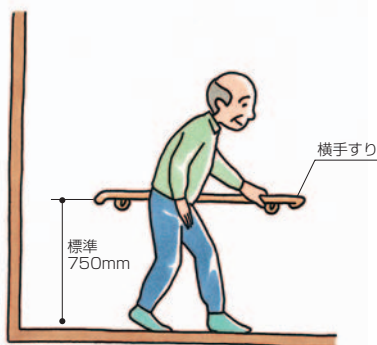
高齢者が利用する手すりは、身体状況にあわせて設置することで初めて効果があらわれます。効果的な設置場所や目安になる基本寸法を知っておくことが必要です。(身体状況によっては基本寸法では効果的でない場合があります。その場合は専門家に相談してください)

玄関

- 手すりを握る高さは床から1200mm前後の高さが一般的です。



廊下

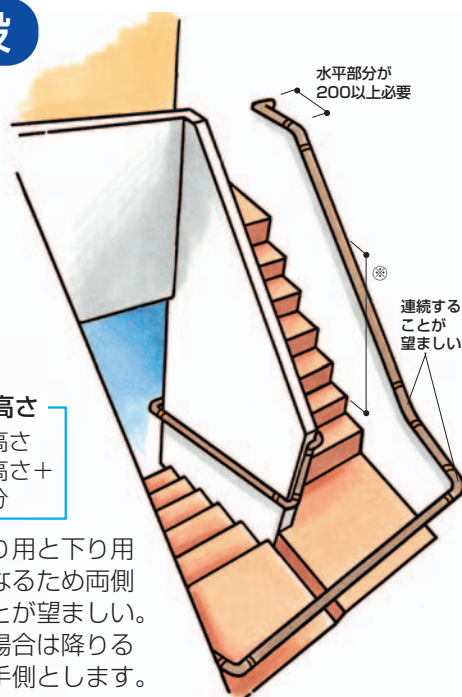


階段

※手すりの高さ

- 上り用 杖の高さ
- 下り用 杖の高さ+1段分

- 手すりは上り用と下り用で高さが異なるため両側につけることが望ましい。
- 片側のみの場合は降りる時の利き手側とします。



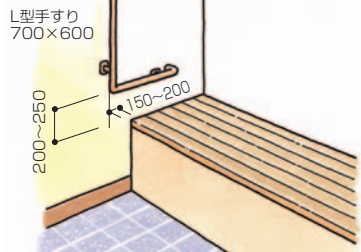
便所

※図のL型手すりはLタイプ(左用)です。



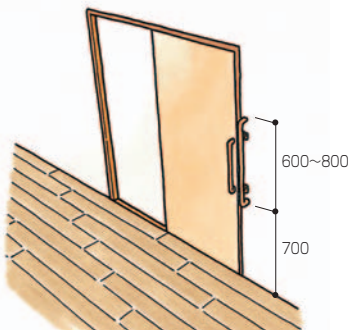
洗面所

※図のL型手すりはLタイプ(左用)です。

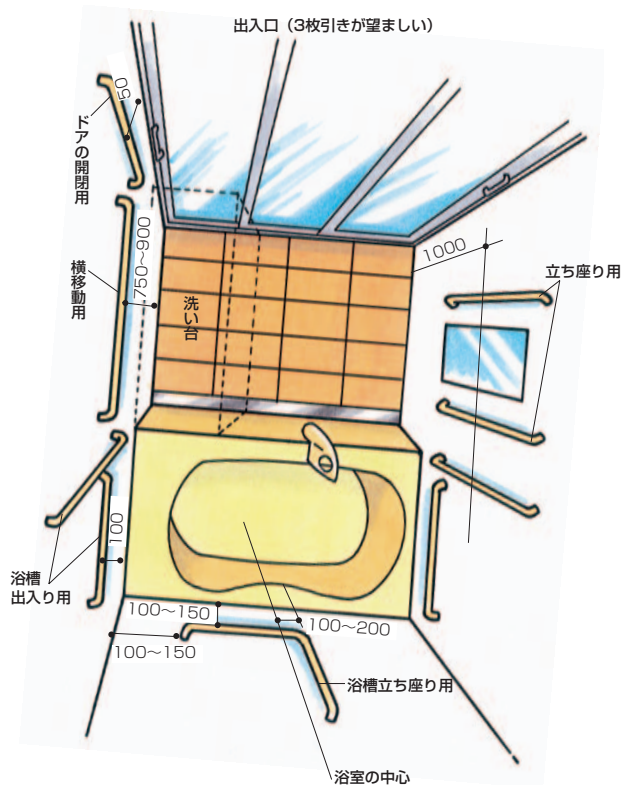


扉の横

- 手すりを握る高さは床から1200mm前後の高さが一般的です。



浴室



※浴室は大事故につながりやすい場所であるため、様々な位置が考えられます。身体状況にあわせて適切な位置を選びます。

壁の種類と手すり取付方法

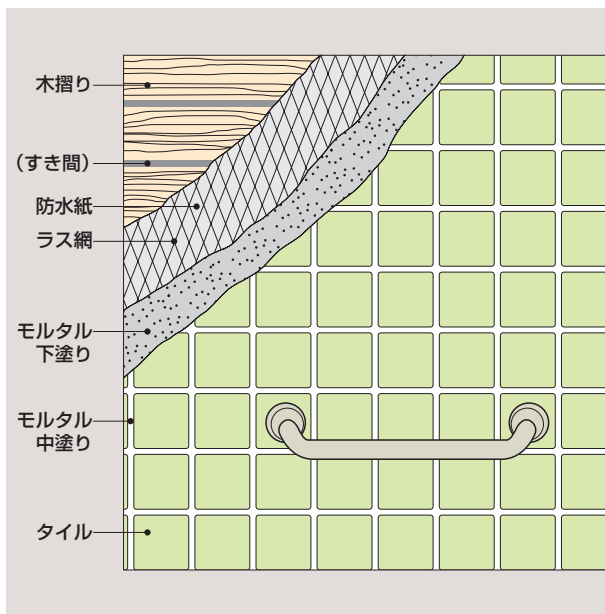
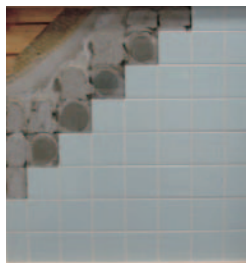
ラスモルタル壁

トイレや風呂場に多い壁です。細い板を隙間を空けて打ち付けた木摺り下地に防水紙を敷き、その上にラス（モルタルを止める網）をタッカーで止め、ラスにモルタルを塗り込み下地を作ります。タイルの張り付けは、タイルの裏面にモルタルを団子状に盛り、下地の上に貼っていきます。（団子貼り）

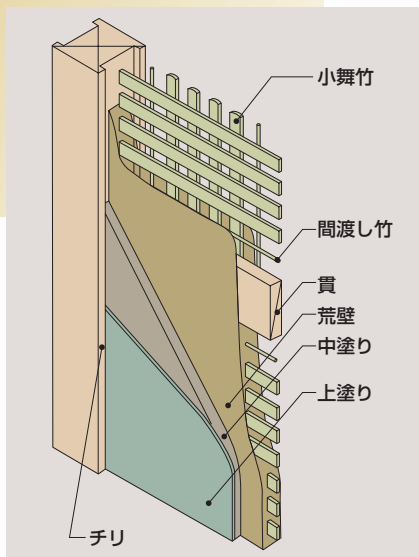
手すりの取付は、タイル中央に

団子貼りゆえに、タイルの四方の目地にはモルタルが入っていません。木摺りの隙間のためネジがまったく効かないことがあるので、タイルの中央に手すりブラケットを付けます。

- ①磁具タイル用コンクリートドリルで穴をあける。
- ②ネジにあった鉛やPCのアンカーをさし込みしっかり止める。



真壁



和室に多い壁です。柱が露出しており、柱と柱の間に土壁やジュラクや漆喰など和風の壁が塗り込められています。伝統的に竹を編んだ小舞竹下地や、木摺り下地などがあります。

強度の問題から直接手すりを付けることはできません。

ベースプレートなど柱に渡し、それに手すりを取り付けます。



真壁の壁は、古くなると痩せて湾曲していることが多く、ベースプレートを取り付けても隙間ができ、上からネジが見えてしまいます。20mm以上のベースプレートにネジ足がでない長さの別途ビスを用意するか、ベースプレートを壁に沈めるなどの工夫が必要です。

◀有穴石膏ボードに塗りあげたもの

大壁（石膏ボード下地）

マンションや新しい住宅に多い壁です。耐火性、施工性、経済性から石膏ボード（プラスターボード）を下地につかうことが多いのですが、石膏ボード自体には強度がなく、手すりなどを直接取り付けることはできません。各種中空壁用アンカーが販売されていますが、石膏ボードが割れたり、そのものが外れたりすることがあるので、お薦めできません。

手すり取付部分を石膏ボードと同じ厚みの合板に張り替えるか、ベースプレートの幅だけカットして間柱を確認し、ベースプレートを取付けその上に手すりを付ける。センサーや針で間柱を探し、ブラケットを取付けることがあります。最近の胴縁は細くなっているためネジが利かないことがあります。確実な方法で施工しましょう。



▲胴縁に化粧ボード貼ったもの

